

木古内町中心市街地

(北海道木古内町)

計画期間 平成23年度～平成27年度
 面積 100ha
 交付対象事業費 1,294.8千円
 人口 4,547人 (地区内人口 2,696人)

ポイント

「道の駅 みそぎの郷 きこない」には広域観光の拠点施設としての役割があり、近隣9町の特産品の販売や観光コンシェルジュが常駐していることから多くの方にご利用いただき、平成29年5月には来館者数が70万人を突破している。また、北海道施工の駅前通整備ではインターロッキング舗装と電線地中化により統一した景観が形成され、木古内町観光協会で開催している「木古内みそぎまち歩き」が人気を博している。また、町木の道南スギは北限のスギであり、北海道の厳しい自然環境に耐え、年輪の詰まった良質な材として評価されている。その道南スギを、駅前商店街の方々の協力により、駅前通の各商店の外観に使用するとともに、道の駅、自由通路やポケットパーク等に活用している。

地区概要

基幹事業の道の駅整備等と他事業の駐車場整備により、観光客がまちなかを散策できる仕組みを整備することにより、誰もが楽しめるまちづくりを実現し、中心市街地の賑わいの再生を図る。

目標

- 大目標：人々のふれあいが、活気と幸せを育むまちづくり
- ：高齢者の方が安心し、生きがいをもって暮らせる「まちづくり」
- ：街並み景観と合わせた賑わいのある商店街づくり
- ：交通の利便性を活かした新たな観光開発と、観光情報の発信機能づくり

指標

中心市街地の活気生まれることで、町民活動が数多く展開されること、観光客の増加が図られるため目標とした。

高齢者対象事業の年間参加者数	412人 (H21)	→	607人 (H28)
駅前商店街の1日通行者数	830人 (H22)	→	1,378人 (H27)
木古内町観光イベント来場者数	1,800人 (H21)	→	3,800人 (H28)

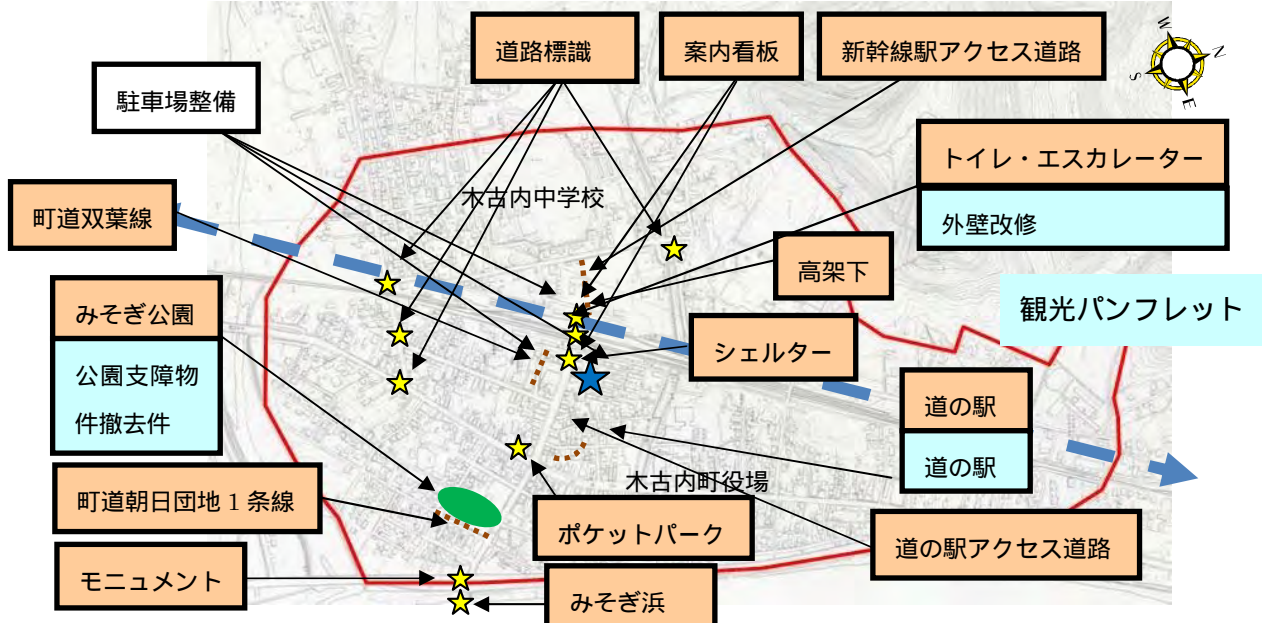
事業内容

基幹事業(819.6百万円)

道路(4路線 総延長 384m) 道路標識(4基) 公園(1箇所 3,300㎡) 地域生活基盤施設(小広場2箇所 総面積 280㎡、観光案内看板3箇所) 高質空間形成施設(高架下整備 608㎡、モニュメント1基、シェルター10.08m、トイレ・エスカレーター整備) 高次都市施設(道の駅 859㎡)

提案事業(475.2百万円)

観光パンフレット(30,000部) 公園支障物件撤去 外壁改修、道の駅建設



地区の現況と課題

当地区は商店街や金融機関など当町における経済の中心的役割を担う地域です。しかし、近年では商店の撤退等により、商店街の活気が衰退し、市街地の空洞化も進んでいる。いかに中心市街地に人を集め、賑わいを生み出すかが大きな課題となっている。

提案事業の特徴

～道の駅「みそぎの郷きこない」の整備～

当町のみならず、道南観光の拠点施設として整備した。

～アクセス道路の整備～

他事業で整備した3つの無料駐車場へのアクセス向上を図るため、道路を整備した。

～みそぎ公園の整備～

町民の憩いの場としての機能とイベントスペースの機能を備えた公園を整備した。

まちづくりの効果、持続的な取り組み

～まちづくりの効果～

道の駅「みそぎの郷きこない」は、町外からの利用者も多く、来館者数が当初計画の3倍以上を記録しており、駅周辺の賑わいをつくり出している。さらに、木古内町観光協会が主催している「木古内みそぎまち歩き」の参加者も増加しているなど、事業の効果が十分に現れている。

～持続的な取り組み～

道の駅の更なる来館者の増加に向け、お子様連れや高齢のお客様など幅広いニーズに応えるべく、憩いの場となる「みそぎガーデン」を整備することにより、道の駅だけでなく、駅前通の活性化が期待される。

大森 伊佐緒町長のコメント

当町では、北海道新幹線開業の効果を最大限に発揮するべく、町内観光の魅力向上と近隣町を巻き込んだ広域観光を展開してきました。なかでも都市再生整備計画事業で整備した道の駅「みそぎの郷きこない」にはたくさんの方に来館いただき、オープンから1年で55万人を突破しました。これも担当職員の地道なPR活動と道の駅スタッフの工夫と努力の積み重ねの効果です。また、提案事業で整備した「みそぎ公園」、「みそぎ浜」は夏・冬のイベント会場としての役割もあり、スペースを確保したことにより、町内外からの参加も増え、最大の動員数を更新しました。

今後も、住んでいる方々が生きがいを感じられるまち、来られた方々が満足していただけるまちを目指していくとともに、新幹線時代を迎えた北海道の模範的なモデルケースとなるよう、まちづくりに取り組んでまいります。

木古内商工会 北島孝雄会長のコメント（一般社団法人 木古内公益振興社代表理事）

木古内町では、中心市街地の活性化を図ることを目的として、道南観光の新たな拠点となる道の駅「みそぎの郷きこない」を整備しました。そのため、道の駅を運営する一般社団法人木古内公益振興社の役割は非常に大きく感じています。オープンから代表理事として継続的なイベントとPRを心がけてきました。そういった活動の結果、道の駅から近隣商店や飲食店へ賑わいが波及していると感じています。

道の駅はスタートしたばかりです。新たな町のシンボルへと成長し、町内外問わずたくさんの方に愛される道の駅となるようこれからも取り組んでまいります。

木古内町観光協会 佐藤裕史会長のコメント

当協会で行っている「木古内みそぎまち歩き」は北海道新幹線開業以降、本州方面から団体・個人旅行者から好評をいただき、予測もしなかったお客様が訪れております。「木古内みそぎまち歩き」のルートは、北海道事業による歩道が拡幅された駅前通からスタートし、町と各商店が協力して取り組んだ道南スギを使用し景観を統一した駅前商店街を通り、国の支援を受けて整備された「みそぎ浜」がゴールとなっています。

当協会は、当町でしか体感できない「まち歩き」を提供するよう心がけ、そして優しいお出迎えを忘れず、国・道・町・民間が一体となって整備された「まちなみ」を活かし、訪れる観光客のみなさまに今以上に楽しんでいただける努力をしていきます。



道の駅のように
【木育フェスタ】



イベントスペースとしての役割も持つ
みそぎ公園
【イベント風景】